

名古屋高速道路公社 IR説明資料

2026年 8月

いつも近くに
名古屋高速



名古屋高速道路公社イメージキャラクター「ナコちゃん」





名古屋高速道路のあゆみ



名古屋高速道路「今・昔」

こんなに変わった!!

高速2号東山線 白川公園付近



東西に伸びる若宮大通
左手に見える空地が
現在の白川公園



名古屋の都心を走る
名古屋高速道路
街の表情も一変した

高速都心環状線 鶴舞公園付近



鶴舞公園電停の上を
国鉄中央線が通る
左手に見えるのは旧鶴舞図書館



蒸気機関車は
電車に姿を変え
自動車めぐるしく行き交う

目次

第1部 概要・事業内容

1. 概要

名古屋高速道路公社について	5
名古屋高速道路ネットワーク	6
料金収入と交通量の推移	7

2. 事業内容

整備計画の概要	8
長期ビジョン2035及び中期経営計画(2025-2027)	9
インフラ長寿命化と災害への対応	10
安全・安心な道路空間の実現／快適な走行空間の実現	12
道路ネットワークの充実	13
持続可能な社会づくりへの貢献	15
2026年度(令和8年度)事業予算	16

第2部 財務状況・資金調達等

1. 財務状況

会計処理の特徴	18
償還準備金のしくみ	19
2025年度(令和7年度)収支状況	20
2025年度(令和7年度)財務状況	21
2025年度(令和7年度)末の償還状況	22

2. 資金調達

公社の資金調達と償還	23
------------	----

3. 名古屋高速道路債券

2026年度名古屋高速道路債券(市場公募債)の概要	24
名古屋高速道路債券の特徴	25
ソーシャルボンドの発行実績	26
ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの概要	27
レポート	28
インパクトレポート	29
投資表明投資家一覧	32

参考資料

34

The background is a stylized illustration of a highway interchange with multiple levels of overpasses. The perspective is from below, looking up at the structure. In the distance, a city skyline with various skyscrapers is visible under a hazy sky. The overall color palette is dominated by light blues, teals, and greys, with a soft yellow glow on the horizon.

第1部

概要・事業内容

名古屋高速道路公社について

公社概要

- 当公社は、地方道路公社法に基づく全国第1号の道路公社として愛知県・名古屋市により設立された特別法人です。(1970年(昭和45年)9月24日設立)
- 名古屋市及びその周辺地域において、都市高速道路である名古屋高速道路の建設・管理を行っています。道路の建設に要する費用は、出資金や借入金で賄い、料金収入により返済を行っています。

名称	名古屋高速道路公社
代表者	理事長 松井圭介
所在地	名古屋市中区栄一丁目8番16号
設立年月日	1970年(昭和45年)9月24日
基本財産	3,303億1,400万円(2026年6月現在)
職員数	252名(2026年4月1日現在)
事業概要	- 名古屋高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理 - 国や地方公共団体等の委託に基づき、名古屋高速道路の管理と密接な関係のある道路の管理 - 国や地方公共団体の委託を受けて、道路に関する調査、測量、設計、試験及び研究 - 名古屋高速道路と一体となって建設することが適当である事務所などの建設及び管理

公社の運営

- 公社の運営上重要な事項については、国・愛知県・名古屋市の許認可等及び財政的支援を受け事業を遂行しています。
- 借入金の返済が終了すれば、設立団体の同意、議会の議決、国土交通大臣の認可をもって当公社は解散となります。ただし、解散時に借入金残高がある場合は、債権者の同意が必要と規定されています。(地方道路公社法第34条)

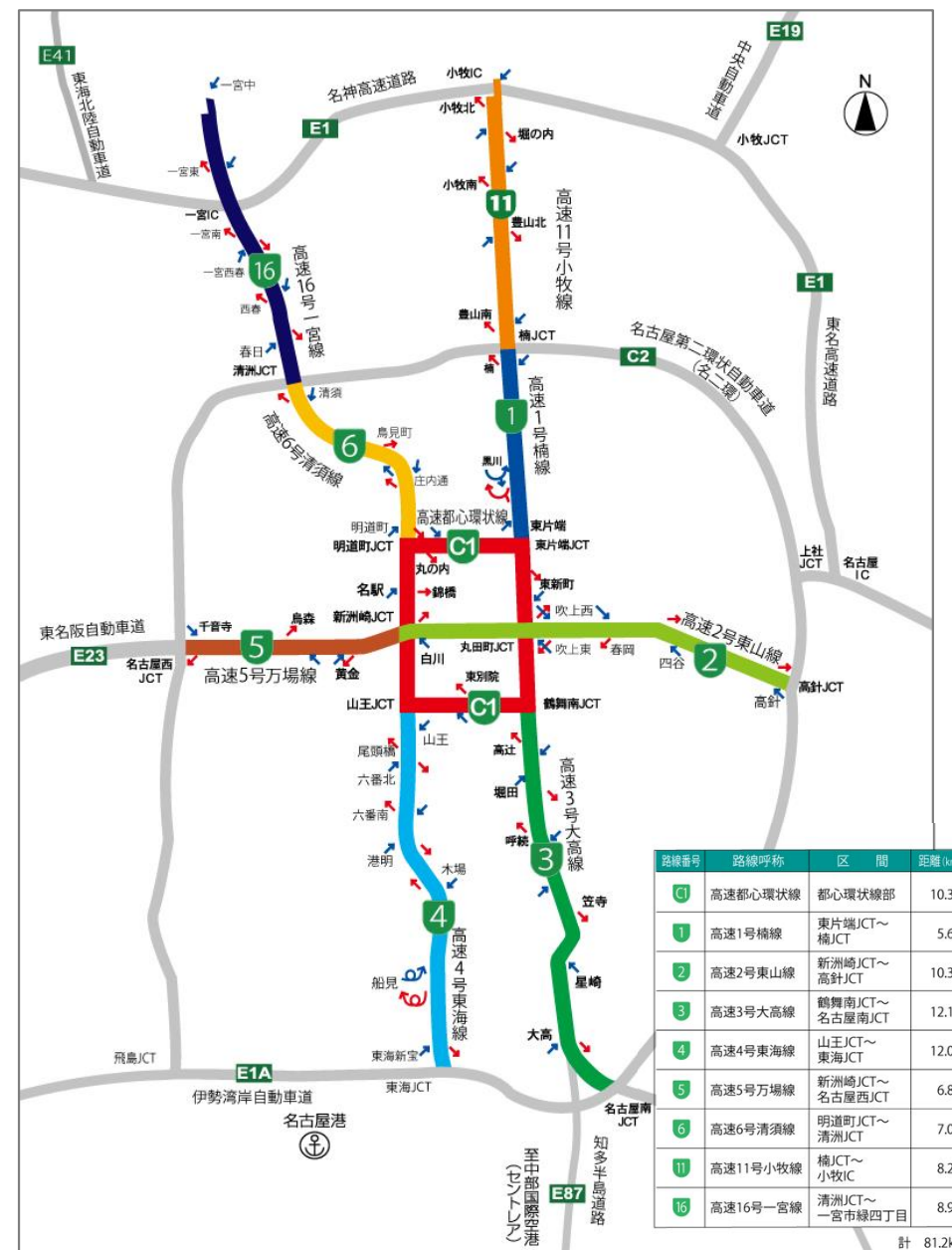
名古屋高速道路ネットワーク

開通延長	日平均通行台数 (2025年度)	料金収入 (2025年度)
81.2km	29万台	733億円

通行料金(2021年5月1日～)

- 5車種区分
- ETC車は利用距離に応じた対距離制
- 現金車は各入口から利用できる最大距離の料金

車種区分	料金額
軽・二輪	290円 ～ 1,110円
普通車	290円 ～ 1,320円
中型車	290円 ～ 1,530円
大型車	300円 ～ 2,010円
特大車	310円 ～ 3,160円



1. 概要

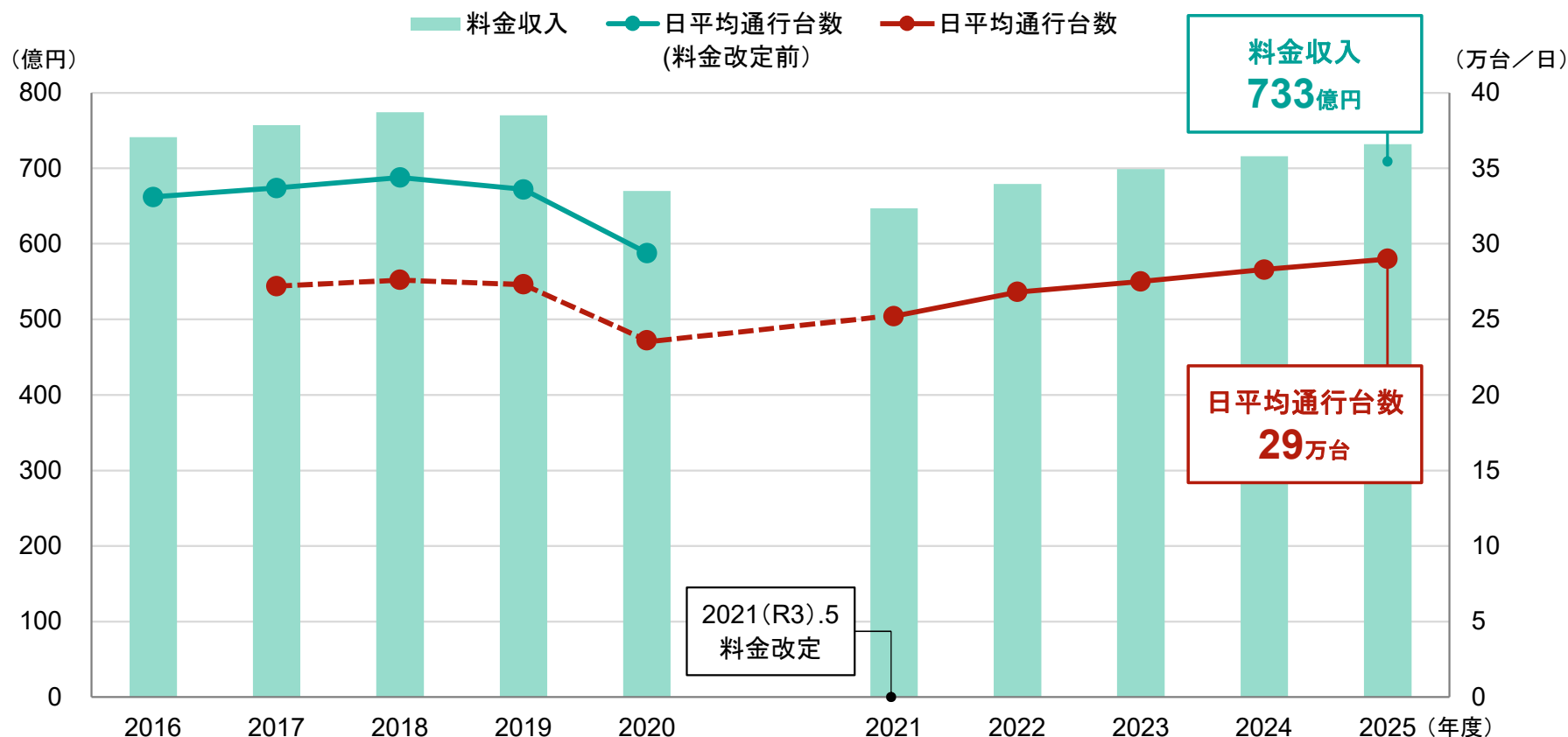
2. 事業内容

料金収入と交通量の推移

2025年度日平均通行台数は過去最高台数(換算推計値※)を記録しました

- 2025年度(令和7年度)の1日あたり通行台数は約29万台(うちETC利用率96.5%)です。
- 交通量は前年度比2.5%増となりました。コロナ禍で一時落ち込んだものの、以降前年度比で増加を続け、**2025年度は過去最高台数を記録**しています(換算推計値※)。

※ 換算推計値とは、2021年(令和3年)5月1日に行った料金改定以降の集計方法によって日平均通行台数を算出した値です。
下表中、赤色の折れ線グラフ(破線部)が2017~2020年度の換算推計値を示しています



整備計画の概要(2026年(令和8年)1月9日国土交通大臣許可)

都心アクセス事業と名岐道路(一宮～一宮木曾川)事業を推進し、更なるネットワークの充実に取り組んでいます

- 1970年度(昭和45年度)より整備を進め、1979年(昭和54年)の高速3号大高線(高辻～大高間)の開通以降、順次開通区間を拡大し、高速4号東海線(六番北～木場間)の開通(2013年(平成25年)11月23日)により、81.2kmが開通しています。現在は次の2つの事業を推進しています。

<都心アクセス事業>

- リニア中央新幹線の開業に向け、名古屋駅へのアクセス向上、中部国際空港を始めとする南方面へのアクセス向上及び都心部における交通集中の緩和を図るため、高速道路出入口の新設や渡り線の整備を推進しています。

<名岐道路(一宮～一宮木曾川)事業>

- 名岐道路(一宮～一宮木曾川)は、高速16号一宮線と東海北陸自動車道・一宮木曾川IC付近を結ぶ自動車専用道路です。渋滞緩和による地域交通の円滑化、物流強化、観光産業の活性化を実現するため、高速道路の延伸事業等を進めています。

総事業費

2兆2,130億円

建設完了

2039年度
(令和21年度)



長期ビジョン2035及び中期経営計画(2025-2027)

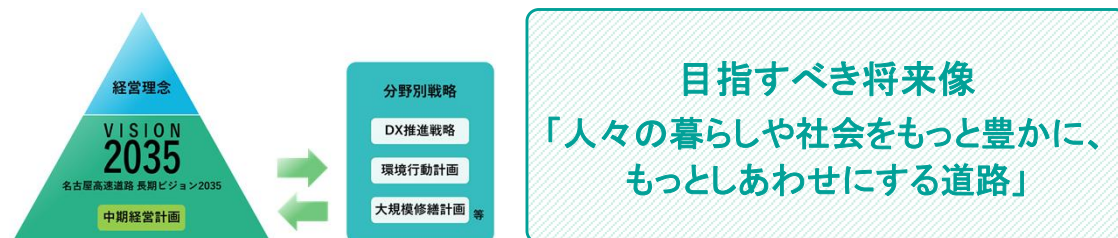
中期経営計画及び長期ビジョンに掲げる、目指すべき将来像の実現に向け取り組んでいます

1. 概要

2. 事業内容

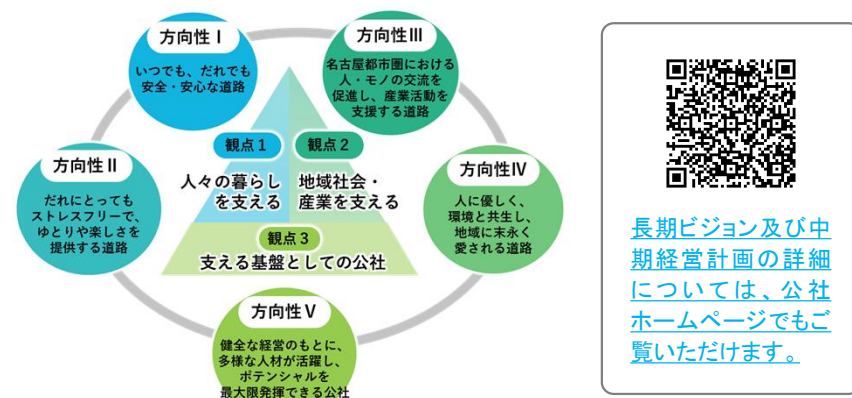
1 長期ビジョン2035及び中期経営計画(2025-2027)の位置づけ

- 新たに2035年度を目標年度とした、長期ビジョン2035を策定し、目指すべき将来像を定め、その実現に向けこれまで策定してきた中期経営計画の上位計画と位置づけました。
- 中期経営計画(2025-2027)では、これまでの取り組みを継続・発展させつつ、長期ビジョンで掲げた将来像の具現化に向けた具体的施策とロードマップを示しています。



2 3つの観点と5つの方向性、10の取り組み方針

- 目指すべき将来像の実現に向けて、3つの観点と5つの方向性を設定し、それらに対して10の取り組み方針を定めました。



長期ビジョン及び中期経営計画の詳細については、公社ホームページでもご覧いただけます。

人々の暮らしや社会をもっと豊かに、もっとしあわせにする道路

3つの観点	目指すべき将来像の実現に向けた5つの方向性	10の取り組み方針
人々の暮らしを支える	方向性Ⅰ いつでも、だれでも安全・安心な道路	1 インフラ長寿命化と災害への対応 2 安全・安心な道路空間の実現
	方向性Ⅱ だれにとってもストレスフリーで、ゆとりや楽しさを提供する道路	1 快適な走行空間の実現 2 ゆとりや楽しさの実現
地域社会・産業を支える	方向性Ⅲ 名古屋都市圏における人・モノの交流を促進し、産業活動を支援する道路	1 道路ネットワークの充実 2 次世代に向けた技術開発に貢献
	方向性Ⅳ 人に優しく、環境と共生し、地域に末永く愛される道路	1 持続可能な社会づくりへの貢献 2 地域社会への貢献
支える基盤としての公社	方向性Ⅴ 健全な経営のもとに、多様な人材が活躍し、ポテンシャルを最大限発揮できる公社	1 経営基盤の強化 2 人材確保・人材育成

インフラ長寿命化と災害への対応



構造物の健全性や路面の走行性等を確保し安全に安心して利用できる道路環境を維持します

1 大規模修繕工事の着実な推進

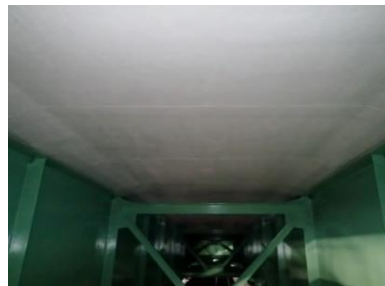
- 構造物の健全性を回復させ長寿命化を図るため、2015年度に策定した大規模修繕計画に基づき、修繕工事を実施しています。
- 点検結果において「早期に措置を講ずべき状態（健全性診断区分Ⅲ※）」と判定された構造物に対しては、損傷の発見から5年以内に補修等の措置を講じます。

※ 国土交通省告示に基づく健全性の診断区分Ⅲは「構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態」のことをいう

大規模修繕の対策例
(コンクリート床版下面)



対策前



対策後

点検状況



高所作業車による打音検査の状況



検査路における近接目視点検の状況

2 リフレッシュ工事の実施

- 舗装の打換えを主とするリフレッシュ工事は、1～2週間程度の通行止めにより、大規模かつ多工種の工事が集中的に展開できることから、効率的にメンテナンスが可能となります。
- 工事の実施に当たっては、各路線の点検結果・経過年数・損傷状況等、総合的観点から方針を策定したうえで計画的に進めます。

2025年度リフレッシュ工事の状況
(16号一宮線北行きで2025年
10月25日(土)～11月2日(日)に実施)



工事完了後

インフラ長寿命化と災害への対応



大規模地震等の災害時に、緊急輸送道路としての機能を確実に発揮できるよう、災害対応力を高めます

災害時における名古屋高速道路の役割

- 名古屋高速道路は、災害時の救急救命活動や災害支援物資等の輸送における**緊急輸送道路**として指定されており、平常時以外でも地域社会を支える重要なインフラとなっています。
- 緊急輸送道路としての機能を発揮できるよう、兵庫県南部地震後の約10年間で耐震補強等の対策を完了しています。その後、現在に至るまで地震発生後の緊急点検や応急復旧に資する対策を進めるとともに、南海トラフ地震を始めとする大規模地震を想定した訓練の継続的な実施や、災害対応力強化に向けた取り組みを実施することにより、災害リスクの低減を図っています。

耐震補強工事の実施

- 1995年に発生した兵庫県南部地震を受けて、新たに定められた基準に基づいた耐震設計による建設を実施
- 既設構造物については、その基準を満たすよう耐震補強工事を実施し、2004年度末に完了しています。



地震発生後の緊急点検や 応急復旧に資する対策



緊急点検
橋脚梁周りの検査路の整備



応急復旧
ジャッキの規格や据付け位置の明示

実践的な 防災訓練の実施

- 大規模地震等を想定しての初動対応、災害対策本部運営、道路啓開※のための実動訓練など、各種の実践的な訓練を計画的に実施しています。

※ 災害時における救援・救護の要として、がれき等で塞がれた道を切り開き、緊急車両の通行を確保すること。



遠隔操作による 入口閉鎖装置の設置

- 災害時にお客様の安全を速やかに確保するため、遠隔操作できるエアバー式遮断棒を設置しています。



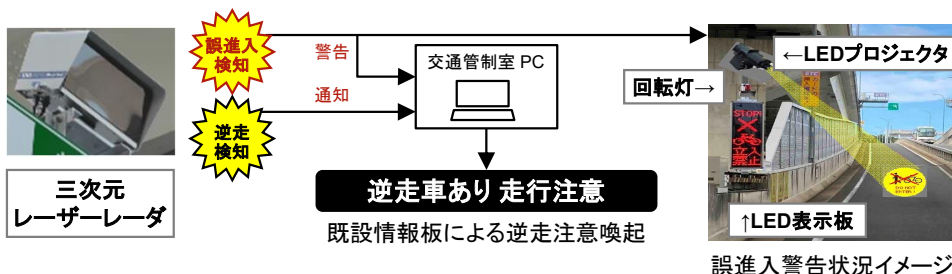
安全・安心な道路空間の実現



逆走・誤進入事案を自動検知するシステムの整備・拡充をはじめ、注意喚起対策を継続して実施します

逆走・誤進入対策の強化

- 早期把握と迅速な対応を可能とする三次元レーザーレーダを用いた逆走・誤進入検知・警告システム(2024年に高針出入口に設置)の整備・拡充を図ります。



- 車両の逆走や歩行者・自転車・原付等の誤進入を防止するため、注意喚起対策を継続して実施します。



快適な走行空間の実現



最適な経路でスムーズに走行できるよう、他機関を含めたシームレスな情報を提供します

道路交通情報提供の高度化

- お客様が最適な経路でスムーズに走行できるよう、渋滞区間や比較所要時間等の情報を経路選択が可能な位置で提供します。
- また、ETC2.0サービス※をより有効に活用いただけるよう、注意喚起情報などお客様の走行に応じた効果的なタイミングで提供します。



視覚的にわかりやすい情報提供(イメージ)

※ 有料道路等における料金収受に加えて、渋滞時の迂回ルート情報や安全運転に資する情報提供等の多彩なサービスが提供されている

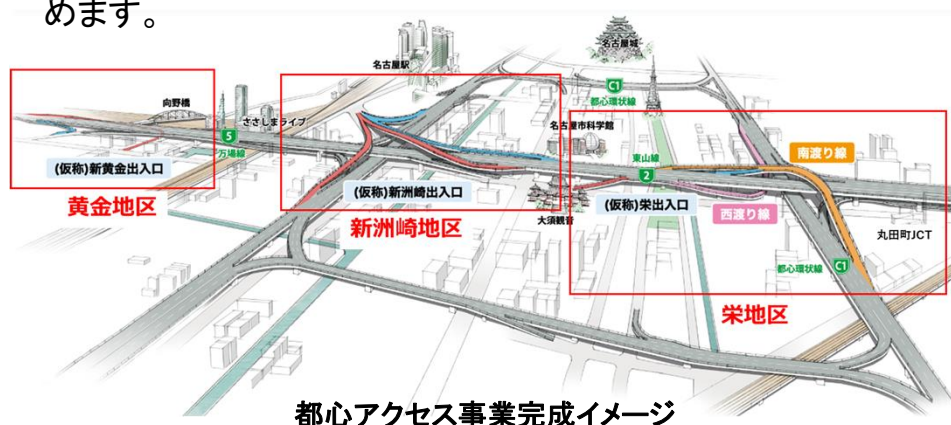
道路ネットワークの充実



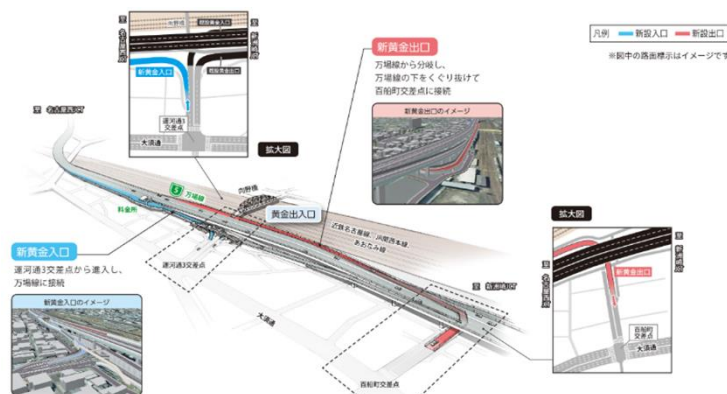
リニア中央新幹線開業の波及効果を最大限に活かすため、都心アクセス事業を推進します

1 都心アクセス事業の推進

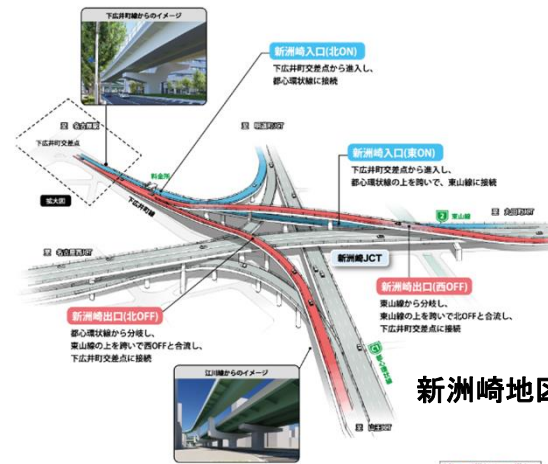
- リニア中央新幹線の開業を見据え、名古屋駅などとのアクセス性向上や高速都心環状線、一般街路交通の渋滞緩和を図るため、「新洲崎出入口の設置」、「新黄金出入口の設置」及び「栄出入口の設置」と「丸田町JCTへの西渡り線・南渡り線の追加」の工事を進めます。



都心アクセス事業完成イメージ



黄金地区



新洲崎地区



栄地区

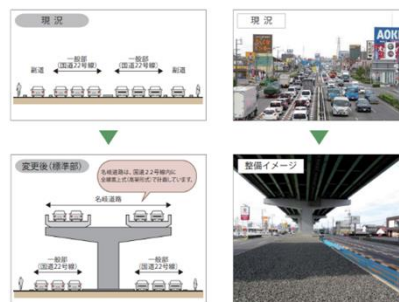
人・モノのスムーズな移動や利便性向上を図るため、名岐道路（一宮～一宮木曾川）事業を推進します

2 名岐道路の早期整備

- 名岐道路は、岐阜と名古屋を最短経路で結び、国道22号(一宮地区)・名神高速道路(一宮JCT～一宮IC)の渋滞対策に寄与する重要な道路です。
- 国道22号の渋滞緩和、航空宇宙産業等拠点間の物流強化、観光地へのアクセス向上による観光産業の活性化が整備効果として期待されます。
- 名岐道路は、2025年4月に国土交通省によって延長6.9kmが新規事業化され、2026年1月に公社による有料道路事業の導入が決定しました。国土交通省との合併施行により早期整備を推進します。



現在の
国道22号の
渋滞状況



名岐道路の
主な構造※



事業位置図





再生可能エネルギーの活用を推進することで地域環境に優しい持続可能な社会づくりに貢献します

1 環境保全の取り組み

- カーボンニュートラルの実現に向けて、名古屋高速道路事業活動から排出する温室効果ガス(CO₂)の削減を着実に進めるため、2022年度に環境行動計画を策定しました。この環境行動計画に基づき、環境保全施策の検討及び進捗管理を進めております。

「環境行動計画」

4つの
方向性



省エネ化の
推進



循環型社会の
実現



周辺環境の
保全



環境技術の
積極的な導入

2 省エネルギー化の推進

- 事業活動における電気使用量の削減、太陽光発電設備の導入等による再生可能エネルギーの利活用等を行います。

道路照明のLED化

- LED照明は、従来のナトリウム灯と比べて消費電力が少なく長寿命であるため、CO₂の削減に効果的です。
- 今年度中に高速道路上の全ての道路照明をナトリウム灯からLED照明へ転換することを目指します。

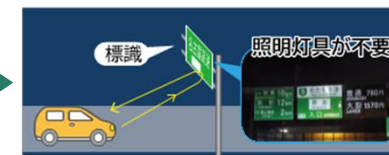
2025年度末LED化率 93%



高速2号東山線 東山トンネル

省エネルギー化の推進 道路施設の

- 超高輝度反射シートを使用した道路標識は外部照明が不要となるため、今後これを標準として採用し、省エネルギー化の推進を図ります。



太陽光発電設備の設置

- エコ技術を採用し、省エネルギー化を進めることで、地球温暖化の抑制に努めています。
- 太陽光発電設備については、黒川出入口他3箇所に設置しています。今後、2030年度までに公社が保有している建築物5箇所※1に太陽光発電設備の導入を目指します。
- 将来の普及拡大を見据え、多様な設置環境に対応したペロブスカイト太陽電池※2の試験導入などを行っていきます。

※1 公社が保有している設置可能な建築物の概ね50%以上として、5箇所への導入を目指す

※2 ペロブスカイトという結晶構造を用いた太陽電池で、従来のシリコン系太陽電池と比べて軽量で柔軟性に優れる



太陽光発電設備(黒川出入口)



ペロブスカイト太陽電池の設置イメージ(吹上西料金所)

2026年度(令和8年度)事業予算

- 2026年度の予算の総額は1,271億円です。下記の建設事業、管理事業等を行っていきます。

1. 概要

2. 事業内容

建設事業	都心アクセス事業及び名岐道路事業を推進します。	建設事業費 114億円
管理事業	安全で快適な交通の確保のため、交通パトロール業務や料金収受業務を行います。また、構造物の点検や修繕を行い、安心して利用できる道路を整備します。    交通パトロール リフレッシュ工事 構造物点検	管理事業費 1,157億円 (借入金の返済 594億円を含む)
その他事業	合併料金所の維持管理業務の受託事業等を行います。	その他事業費 0.6億円

※端数処理の関係上、計において合わないことがあります。
参考資料P37:「2026年度(令和8年度)収入・支出予算」参照

The background features a stylized illustration of a multi-level highway interchange with several overpasses. Below the highway, a city skyline is visible with various skyscrapers and buildings. The entire scene is rendered in a light, semi-transparent style, allowing the text to be clearly visible. A solid teal vertical bar is positioned on the far left side of the image.

第2部

財務状況・資金調達等

会計処理の特徴

当公社では、企業会計原則に準じた会計処理を行っていることにより、財政状態や経営成績が明らかになっております。

有料道路事業は、出資金・借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により返済していくものであり、全ての返済を終えると、本来の道路管理者に引き渡すことになっていることから、借入金が着実に返済されているかどうかを会計処理において適切に把握することが重要です。

「道路資産」においては、企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上しておりません。

借入金の返済に充てた年度の「収支差」(収益と費用の差)を「償還準備金繰入」として損益計算書の費用に計上し、その累計額を「償還準備金」として貸借対照表の負債の部に計上しています。

「道路資産」の額と「償還準備金」の額の対比により、道路に投下した資金の償還状況がわかるしくみになっています。

償還準備金のしくみ



貸借対照表

建設中に借入れたお金は道路建設に投下。建設投資額はすべて道路建設仮勘定に計上。

①

道路建設仮勘定 50	借入金等 50

開通時点で、道路建設仮勘定は道路資産に振替えられる。

②

道路資産 100	借入金等 100
道路建設仮勘定 0	

損益計算書の償還準備金繰入への計上額は、借入金の返済に充てられる。貸借対照表では、その額だけ借入金残高が減少し、償還準備金が増加。
料金徴収期間（償還期間）を通じて、毎年度借入金残高が減少し、償還準備金が増加。

④

道路資産 100	借入金等 95
	償還準備金 5

⑥

道路資産 100	借入金等 85
	償還準備金 15

借入金残高がなくなり、道路資産と償還準備金と同額になると償還が完了※。

⑦

道路資産 100	借入金等 0
	償還準備金 100

道路は、道路管理者（愛知県と名古屋市）に引き渡されると同時に、貸借対照表からは道路資産と償還準備金を削除。

⑧

(道路資産の引渡し)	
削除	削除

損益計算書

開通後は毎年度、料金収入とともに費用（道路管理費や利息など）が発生。収入からこれらの費用を差し引いた額を償還準備金繰入として計上。

③

管理費 5	収入 20
金利 10	
償還準備金繰入 5	

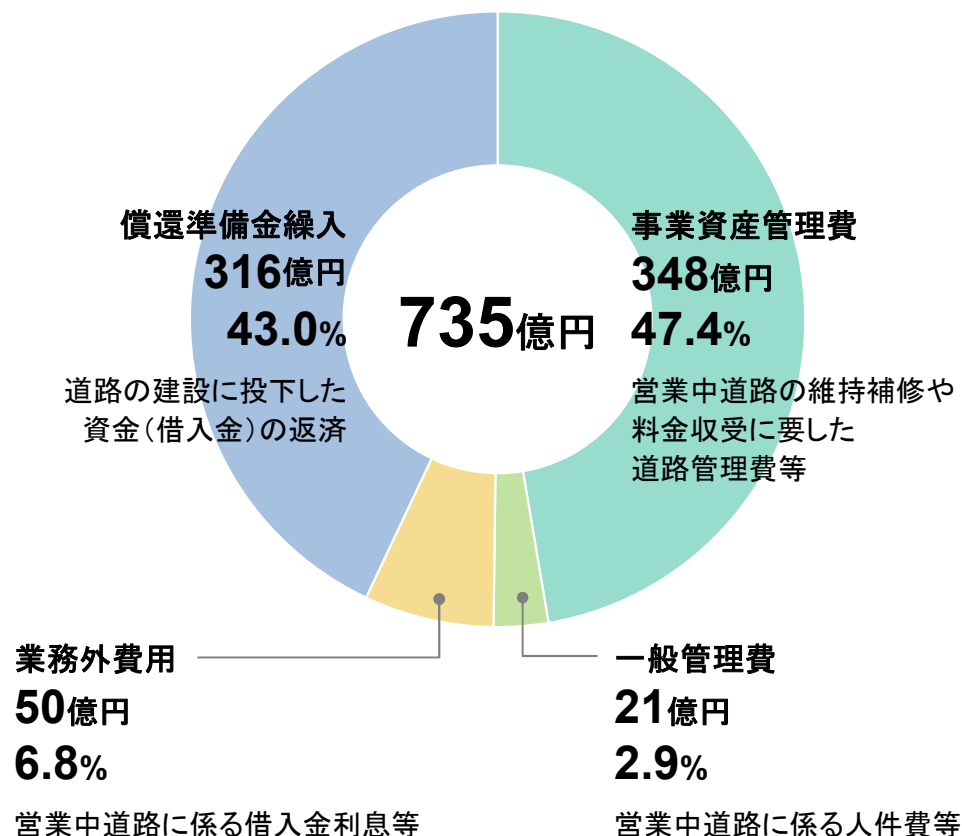
⑤

管理費 5	収入 20
金利 5	
償還準備金繰入 10	

※ 現計画（2020年3月国土交通大臣料金認可）における償還期限：2044年（令和26年）10月

2025年度(令和7年度)収支状況

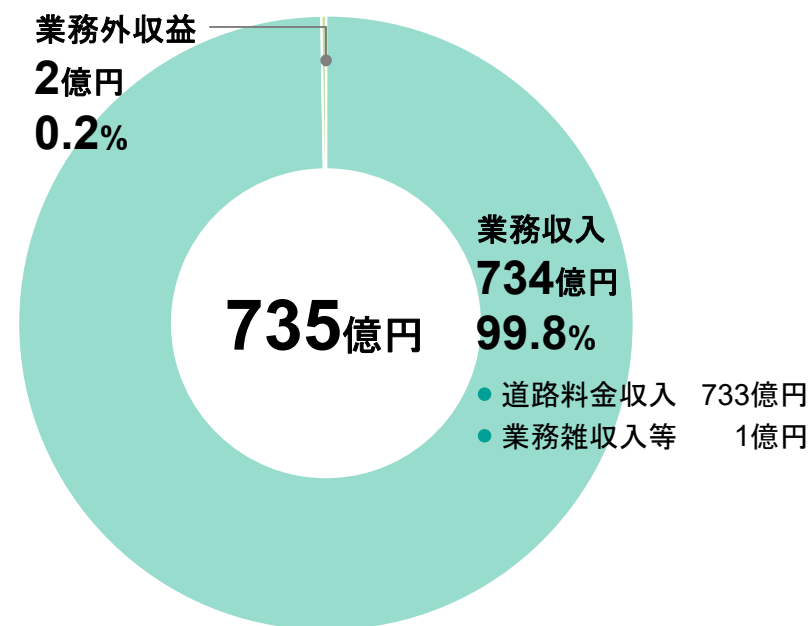
費用内訳



費用の状況

- 費用の総額は、735億円であり、主なものは、道路の維持補修や料金収受などに要した道路管理費348億円(消費税納付金含む。)、借入金利息などの業務外費用50億円、及び借入金の元金返済に充てた償還準備金繰入316億円となっています。
- 償還準備金繰入は、収益・費用の状況により、前年度から24億円減少しました。

収益内訳



収益の状況

- 収益の総額は735億円で、そのうち733億円がお客様からの道路料金収入となっています。
- お客様からの道路料金収入は、前年度から16億円の増加となりました。

※端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

1. 財務状況

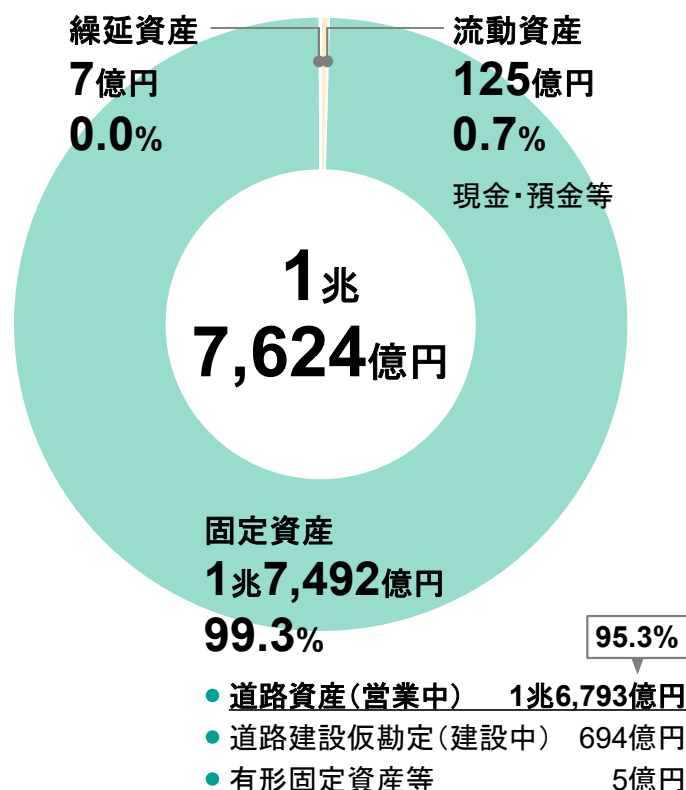
2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

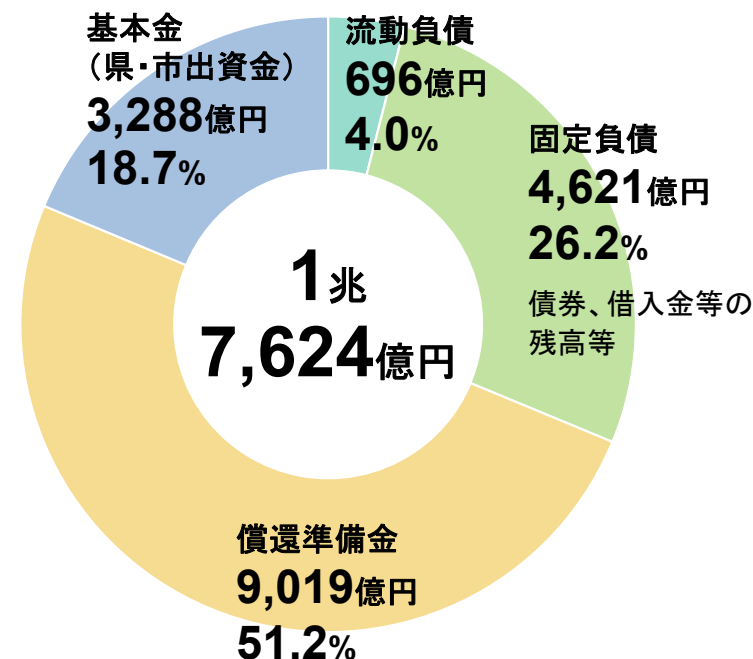
2025年度(令和7年度)財務状況

資産内訳



- 資産の総額は1兆7,624億円となっています。このうち営業中の道路資産は1兆6,793億円であり、資産全体の95%を占めています。

負債・資本内訳



※端数処理の関係上、計において合わないことがあります。

- 負債及び資本の総額は1兆7,624億円であり、主なものは、道路債券を含む借入金の合計が5,133億円、元金返済に充てた累計の返済額である償還準備金が9,019億円、設立団体の愛知県・名古屋市からの出資金3,288億円となっています。

1. 財務状況

2. 資金調達

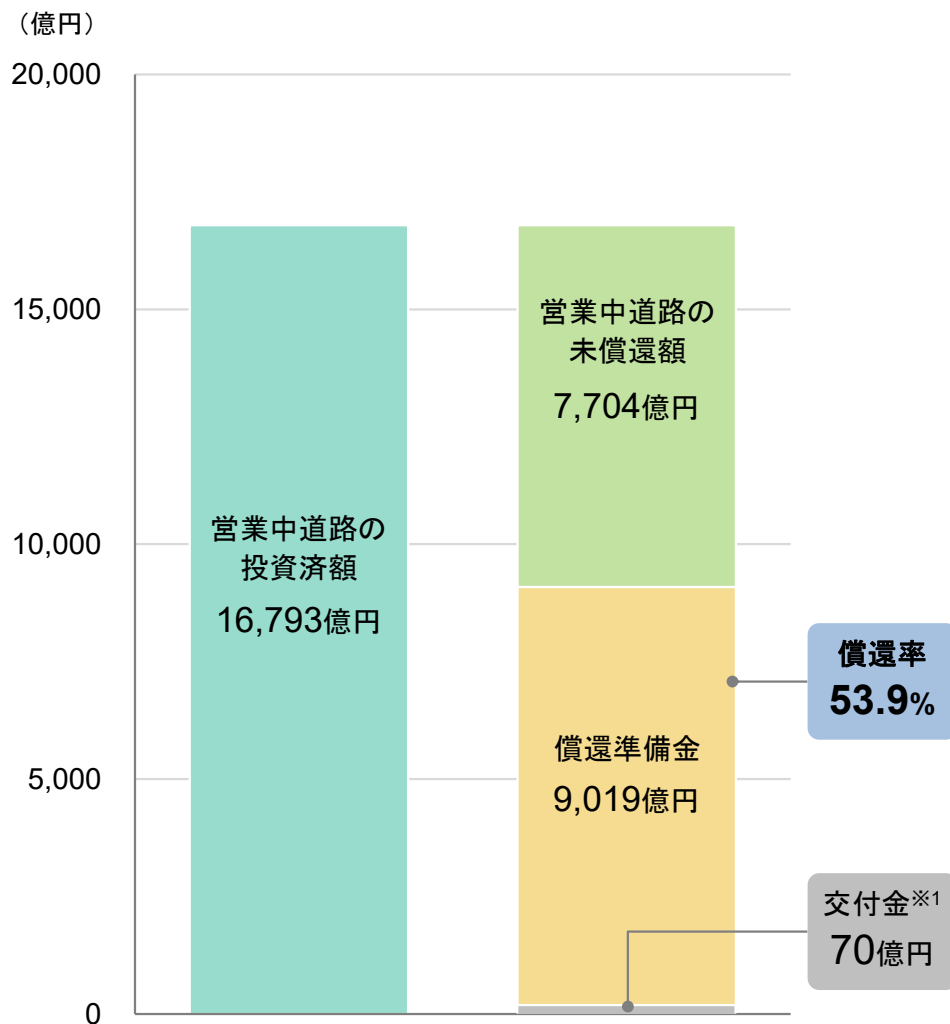
3. 名古屋高速道路債券

参考資料

資産の状況

負債及び資本の状況

2025年度(令和7年度)末の償還状況



- 2025年度末の営業中道路の投資済額1兆6,793億円は、交付金※1を除き借入金及び出資金で賄っております。
- 2025年度末の償還準備金(借入金の返済に充てた償還準備金繰入の累計額)は9,019億円となっております。

2025年度の償還率の状況

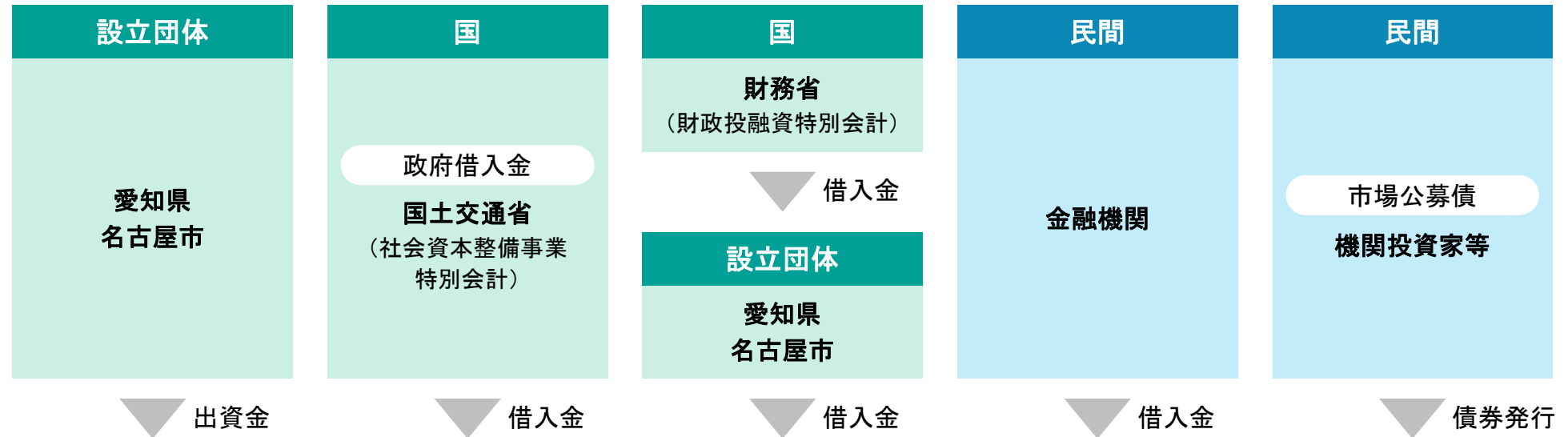
- 償還率(償還対象額に対する償還準備金の比率)は53.9%となり、昨年度から1.8ポイント上昇し、償還が確実に進んでいる状況です。

$$53.9\% \text{ (償還率)} = \frac{9,019 \text{ 億円 (償還準備金)}}{16,793 \text{ 億円 (営業中道路の投資済額)} - 70 \text{ 億円 (交付金※1)}}$$

※ 端数処理の関係上、計において合わないことがあります

※1 交付金は「資産見返交付金」であり、関連街路分担金に対する一定の補助として1988年度(昭和63年度)まで県・市から受けた補助金であり、償還対象外

公社の資金調達と償還



1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

	政府借入金 (無利子)	県・市借入金※ ¹ (特別転貸債)	金融機関借入金	市場公募債
借入期間※ ²	20年 (内5年据置)	20年 (内5年据置)	5.5年／8年	2年／3年／5年／ 7年／10年／12年
償還方法※ ²	1対3の等差級数	元金均等	満期一括	満期一括
設立団体の債務保証	有	—	有	有

※¹ 「県・市借入金」は、設立団体である愛知県及び名古屋市が地方債として国から借り入れたものを、同日、同条件で設立団体から公社が貸付を受けたものです

※² 借入期間及び償還方法については、2025年度実績

2026年度名古屋高速道路債券(市場公募債)の概要

2026年9月債 発行概要

発行時期	2026年9月
発行額及び発行年限	発行額は未定 2年債、5年債、7年債、10年債を発行予定
償還方法	満期一括償還
資金の用途	2026年度借換資金等
位置付け	金融商品取引法第2条第3号に該当する有価証券
主幹事証券会社	● SMBC日興証券株式会社(事務) ● 大和証券株式会社 ● 野村證券株式会社

1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

名古屋高速道路債券の特徴

- 設立団体である愛知県・名古屋市の債務保証(債券の元利金の支払いの保証)を得て発行します。
⇒ 地方公共団体から債務保証を得るため、格付けは取得していません。また、BIS規制上のリスク・ウェイトは、**地方債と同様に0%**です。
- ソーシャルボンドとして発行します。

名古屋高速道路債券の特徴

BISリスク・ウェイト

	リスクウェイト
国債	0%
政府保証債	
地方債	
名古屋高速道路債券 (地方自治体の債務保証付き)	
財投機関債	10%
事業債	20%～150%(外部格付けによる)

名古屋高速道路債券は、地方道路公社法第28条の規定に基づく債務保証付き債券であり、BIS規制上※のリスク・ウェイトは地方債と同様の0%となります。

※ パーゼル合意(BIS規制)・・・国際的に活動する銀行の自己資本比率や流動性比率等に関する国際統一基準

債務保証の内容

債務保証団体及び割合	愛知県・名古屋市それぞれが「発行額の1/2の額と利息相当額」を債務保証する
債務保証内容	元金と利息相当額について、当公社が弁済不能となった場合に、公社に代わり弁済の責務を負うもの

2026年度(令和8年度)の債務保証については、愛知県、名古屋市一般会計予算の一部である債務負担行為(保証契約等)として、2026年3月25日に愛知県議会、3月19日に名古屋市会の議決を経ています。

債務保証と損失補償の違い

	債務保証	損失補償
「保証」又は「補償」の内容	- 主たる債務者が履行しなかった債務のすべて - 主たる債務が履行遅滞となると直ちに履行義務を負う	- 主たる債務者が履行しなかった債務の一部でも可 - 主たる債務のデフォルト後、「損失」の額が確定してから補償される
保証(補償)が付された債券のBISリスク・ウェイト	0%	20%

ソーシャルボンドの発行実績

- 当社は、2020年（令和2年）12月に地方道路公社としては初となるソーシャルボンドの発行を行いました。
- 2004年度（平成16年度）から毎年継続的に市場公募債を発行しており、2020年（令和2年）12月の発行以降の債券は全てソーシャルボンドとして発行を行っています。
- また、以下のソーシャルボンドによる調達資金は、全額充当済となっております。

※ 1bp = 0.01%

回号	発行日	発行額	年限	対国債スプレッド	利回り
171回	2023年（R5年）9月25日	30億円	3年	+16bp	0.215%
172回		40億円	10年	+12bp	0.767%
173回	2023年（R5年）12月25日	70億円	2年	+15bp	0.265%
174回		37億円	5年	+17bp	0.567%
177回		13億円	10年	+11bp	0.924%
178回	2024年（R6年）9月25日	35億円	2年	+10bp	0.479%
179回		19億円	3年	+10bp	0.503%
180回		40億円	5年	+13bp	0.625%
181回		39億円	10年	+13.5bp	1.008%
182回	2024年（R6年）12月25日	40億円	2年	+12bp	0.693%
183回		20億円	5年	+13bp	0.854%
184回		45億円	7年	+15bp	0.937%
185回		32億円	10年	+13bp	1.187%
186回	2025年（R7年）9月25日	30億円	3年	+11bp	1.055%
187回		40億円	5年	+13bp	1.268%
188回		33億円	10年	+14bp	1.715%
189回		31億円	12年	+15bp	2.006%
190回	2025年（R7年）12月25日	30億円	2年	+2.5bp	1.033%
191回		30億円	5年	+11bp	1.531%
192回		25億円	7年	+12bp	1.759%
193回		19億円	10年	+14.5bp	2.062%
194回		35億円	12年	+14bp	2.320%

ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの概要

- 当社は、ICMA(国際資本市場協会)が定めるソーシャルボンド原則、LMA等が定めるソーシャルローン原則の4つの核となる要素に基づき、ソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定しました。
- 本フレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター(R&I)からソーシャルボンド原則2025、ソーシャルローン原則2025及びソーシャルボンドガイドライン(2021年版)に適合している旨の評価を取得(2025年8月4日)しております。

1 調達資金の使途

- ソーシャル・ファイナンスで調達した資金は、社会的課題解決に向けた以下のプロジェクトに係る新規資金または借換資金に充当。
- 以下のプロジェクトはソーシャルボンド原則に例示される事業区分の「手ごろな価格の基本的インフラ設備」に該当し、社会的な便益の受益層は名古屋高速道路のお客様と名古屋都市圏の生活者を含む「一般の人々」(災害発生時には特に「自然災害の罹災者を含む弱者グループ」が対象)。建設・維持管理におけるAI、ICT等の新技術の導入・活用に向けた技術開発は、高速道路の維持メンテナンスの従事者が受益層。

社会的課題	当公社における取組み	
安全・安心に 対する 社会的要請 お客様ニーズの 高度化・多様化	インフラ長寿命化と 災害への対応	● 構造物の長寿命化対策の強化 ● 震災対応の強化 ● 降雪・積雪対策の強化
	安全・安心な 道路空間の実現	● 交通安全対策の強化 ● 逆走・誤進入対策の強化
	快適な走行空間の 実現	● 渋滞対策の推進
経済活動の 広域化・交流 人口拡大 日本中央回廊の 形成	道路ネットワークの 充実	● 名古屋駅周辺交通基盤整備方針(名古屋市策定)などに基づく、都心アクセス事業の着実な推進
	次世代に向けた 技術開発に貢献	● CASEに対応した道路づくり ● 建設・維持管理におけるAI、ICT等の新技術の導入・活用

2 プロジェクトの評価と選定プロセス

- **高速道路の新規建設(新設)・改良工事(改築)**
指定都市高速道路事業は、都市計画において定められ、関係法令に基づいて基本計画及び整備計画を策定し、事業を実施。事業採択後においても、国が定める評価要領に基づき、当公社の設置する事業評価監視委員会にて再評価及び事後評価を実施し、事業の継続や中止、環境の影響を踏まえた必要措置等を判断。
- **高速道路の修繕**
「インフラ長寿命化計画」や「大規模修繕計画」に基づいて点検や修繕を確実に実施。また、この点検結果等を用いて構造物の健全度を診断し、維持・修繕等の措置を適切に行い、それらを記録・保存して、次の点検や修繕の計画立案につなげることで、維持管理サイクルを着実に実施。

3 調達資金の管理

- 当公社の資金は、地方道路公社法に基づきその他事業から区分された道路建設等事業に充当され、当公社の会計システムにて適切に管理。
- 調達資金が充当されるまでの間は、調達資金は現金又は現金同等物及び定款に定める方法に限定した運用にて管理する旨を債券内容説明書やローン契約等の書類で開示予定。

4 レポーティング

- 対象プロジェクトの進捗状況や資金充当状況は、当公社のウェブサイトで公開予定。
- 調達された資金の充当状況については、調達資金の全額が事業に充当されるまでの間、充当された金額及び未充当の金額等を当公社のウェブサイト上にて、年次で開示予定。なお、充当された金額についてはリファイナンスとして充当された比率についても開示。また、調達資金の全額充当後においても充当状況に重要な変化がある場合には、必要に応じて同様の方法で開示予定。

レポーティング(公表ページについて)

- 当公社事業に係る計画・実績について、事業計画や決算情報等を作成し、当公社ウェブサイトにて公開します。
- ソーシャル・ファイナンスに係る定期レポーティングとして、フレームワークに基づくソーシャルボンドまたはソーシャルローンの調達額・資金の充当状況等を当公社ウェブサイト等で公開しています。

1 当公社事業全般

- 高速道路の新設と大規模修繕、インフラ長寿命化などの維持管理に加えて、防災や安全に対する対策、渋滞対策、環境への取り組み等公開。



[公社案内](#)



[公社の取り組み](#)



[長期ビジョン・
中期経営計画](#)

2 財務状況

- 財務・IR情報を当公社ウェブサイトにて公表。



[予算・決算情報\(含む
市場公募債に係る債
券内容説明書\)](#)

3 資金使途

- 資金の使途及び充当状況計画は、当公社ウェブサイトにて公開。
- 充当状況については、調達資金が全額充当されるまでの間、当公社ウェブサイトにて年次で公開。



[ソーシャルファイナンス
の概要](#)

4 事業状況

- 高速道路事業に係る社会改善効果、進捗状況や開通予定情報、大規模修繕等に係る進捗状況のアウトプット・アウトカム等に係る情報を当公社ウェブサイトにて公開。
- 事業の状況に関して、当公社の運営に関する重要事項を報告し、事業の適正かつ能率的な推進をはかるため、昭和45年度から名古屋高速道路公社運営会議を設置。



[大規模修繕計画](#)



[構造物の維持管理
に向けた取り組み](#)



[雪氷対策](#)



[事故対策の
取り組み](#)



[渋滞対策実施箇所](#)



[開通一覧](#)



[路線名・
整備計画図](#)



[運営会議](#)

5 事業評価

- 事業採択後、国土交通省の定めるところにより必要に応じ社外委員による事業評価監視委員会を開催。

インパクトレポート

- 当社は、ソーシャルボンド及びソーシャルローンによって調達した資金を活用し、社会的課題の解決に資するプロジェクトを実施いたしました。2025年度の社会改善効果は以下のとおりです。

社会的課題	当公社における取組み		アウトプット		アウトカム
			指標	2025年度実施	
安全・安心に対する社会的要請 お客様ニーズの高度化・多様化	インフラ 長寿命化と 災害への対応	- 構造物の長寿命化対策の強化 - 震災対策の強化 - 降雪・積雪対策の強化	- 大規模修繕計画 - 大規模修繕工事の実施状況 - 維持管理等の進捗状況 - 構造物の維持管理に向けた取り組み - 雪氷対策	- 大規模修繕計画の対象区間のうち82%を完了 - 維持管理業務の効率化を図り、災害時における情報把握を行うためのGISプラットフォームの本運用を開始 - 高速16号一宮線(下り)におけるリフレッシュ工事にて舗装工事等を実施 - 名神高速道路の予防的通行止めに伴い、連絡路の通行止め状況・積雪・融雪状況を確認するため、試行的にウェアラブルカメラを活用した	- 構造物の5年以内の補修等措置率 100% - 死傷事故率 4.53件／億台km - 渋滞量 16.4km・h／日 - 新技術の導入 3件
	安全・安心な道路空間の実現	- 交通安全対策の強化 - 逆走・誤進入対策の強化	事故対策の取り組み	- 都心環状線本線合流部における安全対策を運用開始のほか、事故リスク情報の提供を実施 - 入口部の路面標示1箇所、出口部の6箇所および都心環状線合流部(8箇所)で逆走対策を実施	
	快適な走行空間の実現	渋滞対策の推進	渋滞対策実施箇所	渋滞発生回数の多い四谷出口で信号現示を調整	
経済活動の広域化・交流拡大 日本中央回廊の形成	道路ネットワークの充実	- 名古屋駅周辺交通基盤整備方針(名古屋市策定)などに基づく、都心アクセス事業の着実な推進 - 名岐道路の早期整備	- 新規建設・改良の進捗状況 - 開通一覧 - 路線名・整備計画図	- 新洲崎地区では工事の推進、黄金地区は用地取得、工事発注の進捗を図り、栄地区においては、工事契約を締結した - 名岐道路事業では有料道路事業の事業化手続きが完了した	
	次世代に向けた技術開発に貢献	- CASEに対応した道路づくり - 建設・維持管理におけるAI、ICT等の新技術の導入・活用	- 自動運転の実現に向けた実証実験件数 - 新技術の導入	- 路車間通信技術及びセンシング技術における実証検証を開始 - 事業者等への情報収集・調査や事業者へのヒアリングを行い、新技術を用いた試験施工を実施した	

1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

インパクトレポート(経済活動の広域化・交流人口拡大)

高速道路の新規建設(新設)・改良工事(改良)

- リニア中央新幹線開業を見据え、名古屋駅周辺交通基盤整備方針(名古屋市策定)などに基づく、都心アクセス事業(「新洲崎JCT出入口の設置」、「新黄金出入口の設置」、「栄出入口の設置及び丸田町JCTへの西渡り線、南渡り線の追加」)を推進しています。
- これらの整備により名古屋駅西方面、東方面からのアクセス向上や、経路の選択肢が増えることにより交通の分散が図られ、都心環状線の渋滞緩和や時間短縮が期待されます。
- 2020年度から整備に向けた事業に着手しており、2025年度は新洲崎地区において工事を推進、黄金地区、栄地区でも工事契約を締結しました。



※ 出入口の名称は現時点での仮称

インパクトレポート

主なプロジェクト	アウトプット	
	指標	2025年度実績
名古屋駅周辺 交通基盤整備方針 (名古屋市策定)などに基づく、 都心アクセス事業の推進	新設建設・ 改良工事の進捗状況 ● 開通一覧 ● 路線名・整備計画図	① 新洲崎出入口の設置 ② 新黄金出入口の設置 ③ 栄出入口の設置及び丸田町JCTへの西渡り線・南渡り線の追加について ● 用地取得、工事契約 ● 新洲崎地区において工事推進



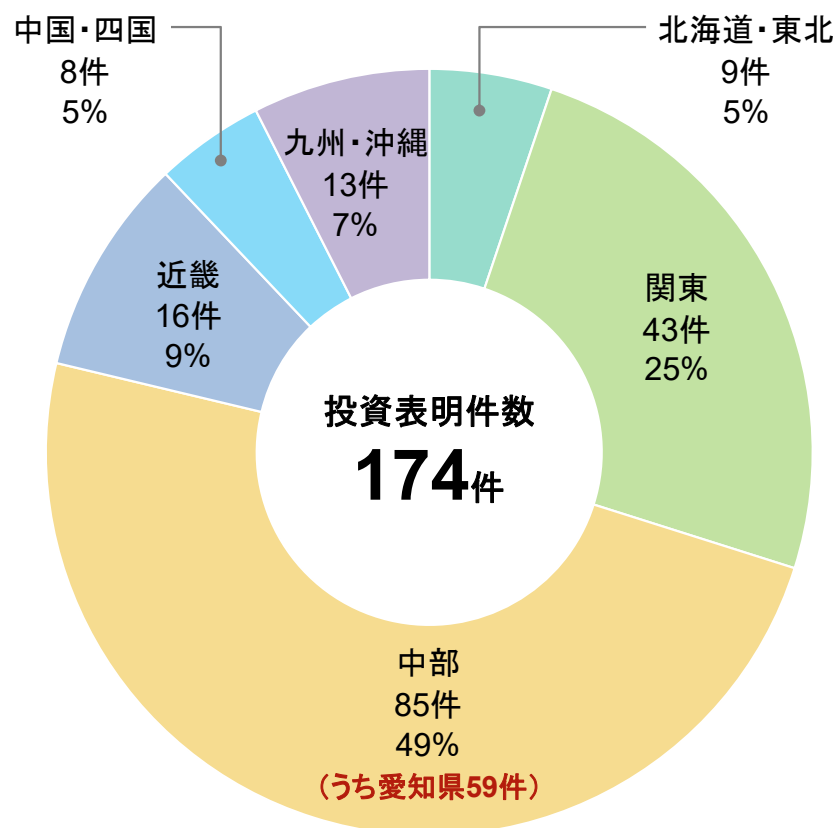
[都心アクセス事業の取り組み
工事進捗状況](#)

投資表明投資家一覧

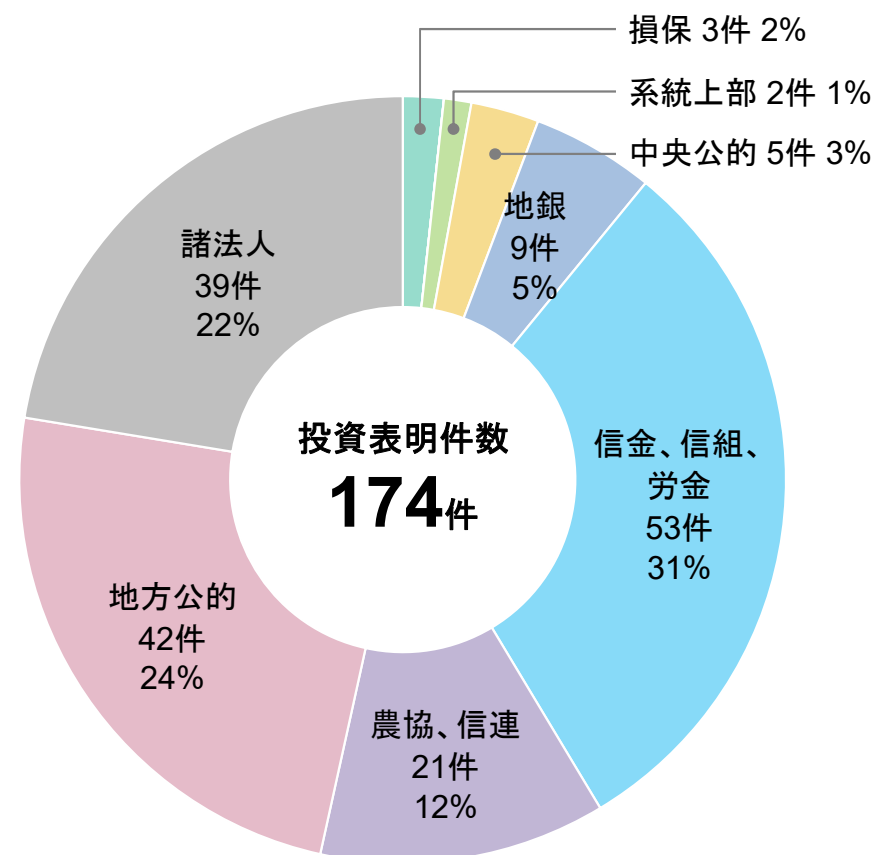
- 当公社が前述のフレームワークに基づき調達する債券及び借入金は、ソーシャル・ファイナンスとして扱われています。
- 社会的課題の解決を発行意義とする当公社のソーシャルボンドは、2020年の発行からこれまでに174件の投資家様から投資表明をいただいております。

【2026年1月時点】

地域別 投資表明投資家件数



業態別 投資表明投資家件数



1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

投資表明投資家一覧

ソーシャルボンド 投資表明投資家一覧(地域別・50音順) (1/2)

174件【2026年1月時点】

中部

- | | | | |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 愛西市 ● アイシン健康保険組合 ● あいち海部農業協同組合 ● 学校法人 愛知学院 ● 愛知北農業協同組合 ● 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 ● 愛知県経済農業協同組合連合会 ● 愛知県競馬組合 ● 愛知県 小牧市 ● 愛知県市町村職員共済組合 ● 愛知県中小企業共済協同組合 ● 愛知信用金庫 ● あいち知多農業協同組合 ● 愛知西農業協同組合 ● あいち尾東農業協同組合 ● 公益財団法人 愛知水と緑の公社 ● あま市 ● アルプス中央信用金庫 ● 安城市 ● 石川県信用農業協同組合連合会 ● 石川県信用保証協会 ● いちい信用金庫 ● 一宮市 ● 岩倉市 ● 上田信用金庫 ● 株式会社 大垣共立銀行 ● 大垣西濃信用金庫 | <ul style="list-style-type: none"> ● 大口町 ● 大野市水道事業 ● 大治町 ● 尾張中央農業協同組合 ● 尾張東部衛生組合 ● 笠松町役場 ● 柏崎信用金庫 ● 春日井市 ● 春日井市病院事業 ● 蒲郡信用金庫 ● 可茂衛生施設利用組合 ● 北名古屋市 ● 岐阜信用金庫 ● 清須市 ● 黒部市農業協同組合 ● 桑名市 ● 小牧市水道事業 ● 三協株式会社 ● 株式会社 三十三銀行 ● 静岡市 ● しずおか焼津信用金庫 ● 株式会社 ZIP-FM ● 新発田信用金庫 ● 株式会社 十六銀行 ● 瀬戸市 ● 瀬戸市水道事業 ● 瀬戸信用金庫 | <ul style="list-style-type: none"> ● 知多信用金庫 ● 中部鋼鉄株式会社 ● 学校法人 中部大学 ● 東海労働金庫 ● 東春信用金庫 ● 常滑市モーターボート競走事業 ● 公益財団法人 豊田加茂環境整備公社 ● 豊橋農業協同組合 ● 名古屋空港ビルディング株式会社 ● 名古屋競馬 株式会社 ● 名古屋競輪組合 ● 社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会 ● 名古屋市信用保証協会 ● 名古屋市民火災共済生活協同組合 ● 学校法人 名古屋自由学院 ● 公益財団法人 名古屋まちづくり公社 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新潟県 ● 西尾信用金庫 ● 西春日井農業協同組合 ● 西三河農業協同組合 ● 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 ● 沼津信用金庫 ● 浜松磐田信用金庫 ● 半田信用金庫 ● 東浦町水道事業 ● 富士信用金庫 ● 富士宮信用金庫 ● 丸八信用組合 ● みなみ信州農業協同組合 ● 村上市 ● 本巣市 |
|---|---|--|---|

1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

投資表明投資家一覧

ソーシャルボンド 投資表明投資家一覧(地域別・50音順) (2/2)

174件【2026年1月時点】

北海道・東北

- 秋田県信用組合
- 株式会社 七十七銀行
- 須賀川信用金庫
- 大地みらい信用金庫
- 花巻農業協同組合
- 福島さくら農業協同組合
- ふくしま未来農業協同組合
- 水沢信用金庫
- 杜の都信用金庫

関東

- アイオー信用金庫
- 青木信用金庫
- 公益財団法人 朝日新聞文化財団
- 足利市
- 足立成和信用金庫
- 東信用組合
- 安房農業協同組合
- 宇都宮市
- 江戸川区
- 学校法人大妻学院
- 一般財団法人 簡易保険加入者協会
- 独立行政法人 環境再生保全機構
- 公益財団法人 教育資金融資保証基金
- 群馬県信用組合
- 一般財団法人 建設物価調査会
- 独立行政法人 国際交流基金
- 埼玉信用組合
- 埼玉中央農業協同組合
- 山武都市農業協同組合
- しのめ信用金庫
- 湘南信用金庫
- 信金中央金庫
- 公益財団法人 新日本宗教団体連合会
- セゾン自動車火災保険 株式会社
- 世田谷区
- 公益財団法人 せたがや文化財団
- 全国町村職員生活協同組合
- 全東栄信用組合
- ソニー損害保険株式会社
- 千葉みらい農業協同組合
- 独立行政法人 中小企業基盤整備機構
- 東京三協信用金庫
- 特別区人事・厚生事務組合
- 栃木県信用保証協会
- 中ノ郷信用組合
- 日本郵政グループ労働者共済生活協同組合
- 日本再共済生活協同組合連合会
- 日本私立学校振興・共済事業団
- 平塚信用金庫
- 不動産信用保証株式会社
- 防衛省共済組合
- 真岡信用組合
- 労働金庫連合会

近畿

- 石原ケミカル株式会社
- 伊丹市
- 北おおさか信用金庫
- 京都中央信用金庫
- 京都府住宅新築資金等貸付事業管理組合
- 京都北都信用金庫
- 神戸市
- 公立穴栗総合病院
- 滋賀県信用保証協会
- 滋賀中央信用金庫
- 但馬信用金庫
- 橋本市
- 姫路市
- 一般社団法人 姫路市医師会
- 兵庫県
- 八幡市

中国・四国

- 観音寺信用金庫
- 周南市
- 玉島信用金庫
- 株式会社 徳島大正銀行
- 東山口信用金庫
- 株式会社 百十四銀行
- ひろしま農業協同組合
- 山口県信用保証協会

九州・沖縄

- 奄美信用組合
- 大川信用金庫
- 株式会社 沖縄銀行
- 株式会社 鹿児島銀行
- 鹿児島県医師信用組合
- 鹿児島信用金庫
- 北九州市
- 大同火災海上保険 株式会社
- 高鍋信用金庫
- 竹富町
- 一般財団法人 福岡県退職教職員協会
- 宮崎第一信用金庫
- 株式会社 琉球銀行

1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

参考資料

有料道路の事業主体と種類

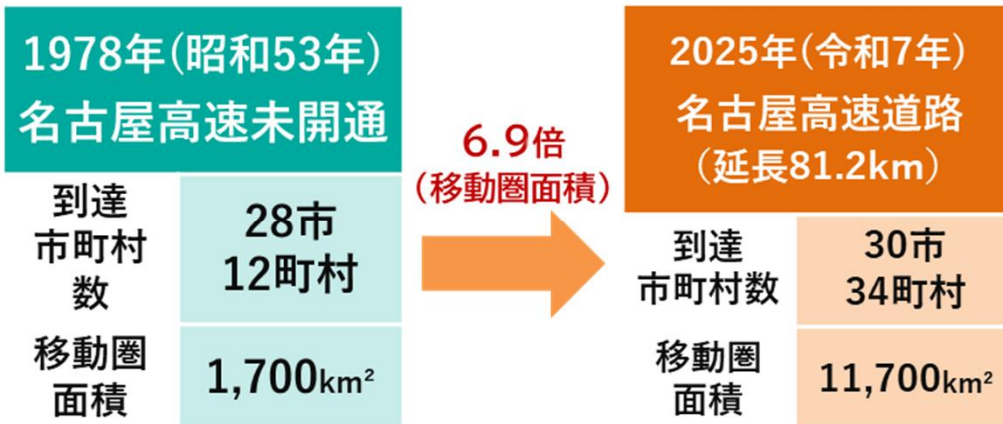
名古屋高速道路公社・名古屋高速道路の位置づけ

事業主体	有料道路の種類
● 東日本高速道路株式会社 ● 中日本高速道路株式会社 ● 西日本高速道路株式会社	高速自動車国道
	一般有料道路 (一般国道、都道府県道、指定市道)
● 首都高速道路株式会社 ● 阪神高速道路株式会社 ● 指定都市高速道路公社 (名古屋、福岡北九州、広島)	都市高速道路 (一般国道、都道府県道、指定市道)
本州四国連絡高速道路株式会社	本州四国連絡道路 (一般国道)
地方道路公社	一般有料道路 (一般国道、都道府県道、市町村道)
地方公共団体	一般有料道路 (都道府県道、市町村道)

名古屋高速道路の整備効果

- 名古屋都市圏の自動車交通の円滑化を目的に整備された名古屋高速道路は、そのご利用により、所要時間を短縮するとともに、便利でスムーズな移動を可能にします。

自動車での1時間移動圏の拡大

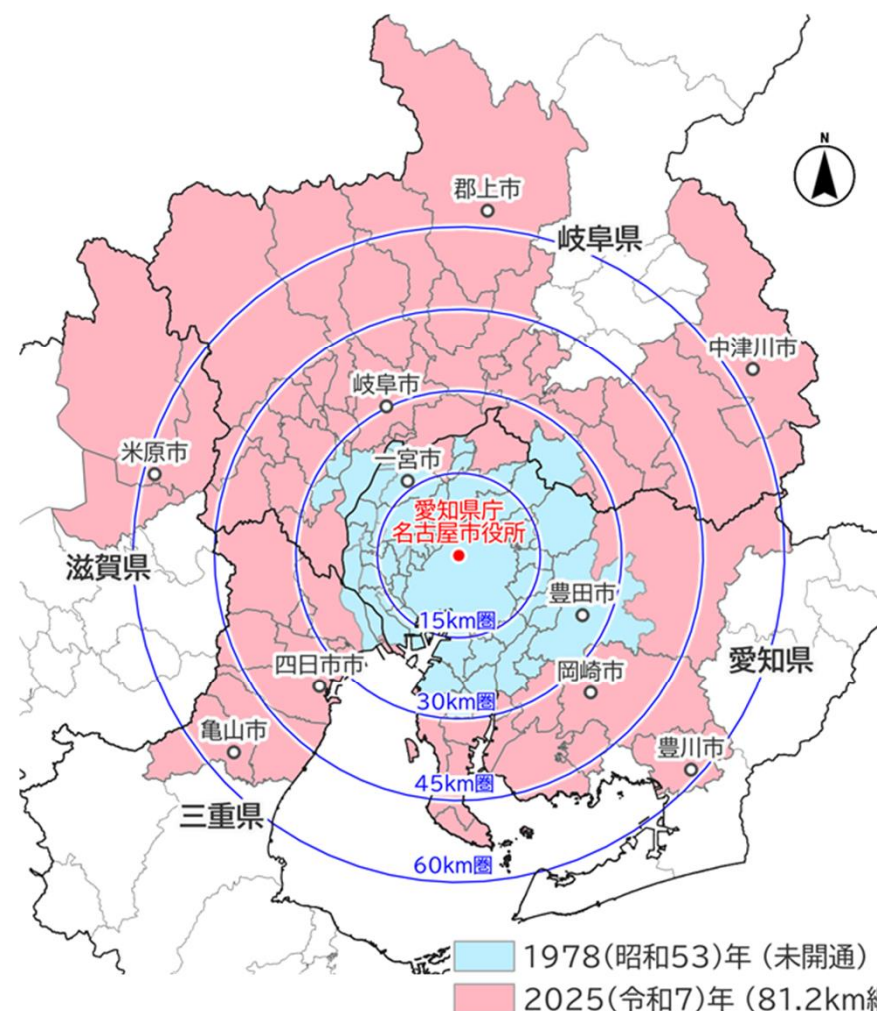


【算出条件】

○1時間移動圏は、自動車利用により愛知県庁・名古屋市役所まで1時間で到達可能な市町村とし、各市町村の役所・役場からの法定速度による到達時間をもとに算出。

○面積は、国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調（10月1日時点）」より算出。

※地図データ：「国土数値情報（行政区域データ）」（国土交通省）を加工して作成。



2026年度(令和8年度)収入・支出予算

(単位: 百万円)

区分	収入				支出			
	科目	R8予算額(A)	R7予算額(B)	(A)／(B)	科目	R8予算額(A)	R7予算額(B)	(A)／(B)
建設事業費	県・市出資金	1,530	2,145	71.3%	建設費	9,890	13,278	74.5%
	無利子貸付金	2,550	3,575	71.3%	一般管理費	1,321	930	142.0%
	特別転貸債	3,570	5,005	71.3%	支払利息	189	92	205.4%
	民間借入金	3,750	3,575	104.9%				
	計	11,400	14,300	79.7%	計	11,400	14,300	79.7%
管理事業費	料金収入	69,206	68,092	101.6%	維持改良費	35,250	33,804	104.3%
	民間借入金(借換)	46,164	44,393	104.0%	業務管理費	12,773	12,152	105.1%
	雑収入	287	257	111.7%	一般管理費	2,095	2,144	97.7%
					業務外支出	65,534	64,637	101.4%
					元金償還金	59,384	58,796	101.0%
					支払利息	6,150	5,841	105.3%
					予備費	5	5	100.0%
	計	115,657	112,742	102.6%	計	115,657	112,742	102.6%
その他事業費	受託工事収入	10	9	111.1%	受託工事費	10	9	111.1%
	代替地取得借入金	53	59	89.8%	代替地取得費	53	59	89.8%
	計	63	68	92.6%	計	63	68	92.6%
合計		127,120	127,110	100.0%	合計	127,120	127,110	100.0%

※ 端数処理の関係上、計及び前年度比において合わないことがあります

2025年度(令和7年度)損益計算書の概要

(単位: 百万円)

費用の部					収益の部				
勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	前年度比		勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	前年度比	
	A	B	A-B	A/B (%)		A	B	A-B	A/B (%)
事業資産管理費	34,816	31,265	3,552	111.4	業務収入	73,352	71,710	1,642	102.3
道路管理費	34,812	31,263	3,551	111.4	道路料金収入	73,255	71,638	1,618	102.3
(内消費税納付金)	(3,454)	(4,105)	(△651)		マイレージ還元負担金収入	0	0	△0	57.3
貸倒引当金繰入	4	2	2	174.8	マイレージ引当金戻入益	1	2	△1	48.7
マイレージ還元負担金	0	0	△0	40.3	業務雑収入	95	70	25	136.3
一般管理費	2,107	1,843	264	114.3	業務外収益	176	103	73	170.4
業務外費用	5,009	4,733	276	105.8					
(内借入金利息)	(4,851)	(4,572)	(279)						
小計(管理費用)	41,932	37,841	4,091	110.8					
償還準備金繰入	31,596	33,972	△2,377	93.0					
合計	73,528	71,813	1,715	102.4	合計	73,528	71,813	1,715	102.4

※ 端数処理の関係上、計及び前年度比において合わないことがあります

1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

2025年度(令和7年度)貸借対照表の概要

(単位: 百万円)

資産の部					負債及び資本の部				
勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	前年度比		勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	前年度比	
	A	B	A-B	A/B (%)		A	B	A-B	A/B (%)
流動資産	12,508	12,057	450	103.7	流動負債	69,639	69,620	19	100.0
現金・預金など	4,374	4,652	△278	94.0	1年以内返済予定長期借入金	59,384	58,796	588	101.0
未収金	8,138	7,408	730	109.8	未払金など	10,255	10,824	△569	94.7
貸倒引当金	△4	△2	△2	189.5	固定負債	462,081	473,559	△11,478	97.6
固定資産	1,749,244	1,725,974	23,270	101.3	名古屋高速道路債券	369,600	378,300	△8,700	97.7
道路	1,679,294	1,678,888	406	100.0	政府借入金	32,286	32,436	△149	99.5
道路建設仮勘定	69,432	46,519	22,913	149.3	県・市借入金	39,698	36,861	2,837	107.7
有形固定資産など	518	568	△49	91.3	長期借入金など	12,283	17,756	△5,472	69.2
繰延資産	669	727	△58	92.0	退職給与引当金	1,189	1,182	7	100.6
					ETCマイレージ引当金	2	3	△1	63.5
					資産見返交付金	7,022	7,022	0	100.0
					特別法上の引当金等	901,916	870,321	31,595	103.6
					償還準備金	901,916	870,321	31,595	103.6
					基本金(県・市出資金)	328,784	325,259	3,525	101.1
資産合計	1,762,421	1,738,758	23,662	101.4	負債・資本 合計	1,762,421	1,738,758	23,662	101.4

※ 端数処理の関係上、計及び前年度比において合わないことがあります

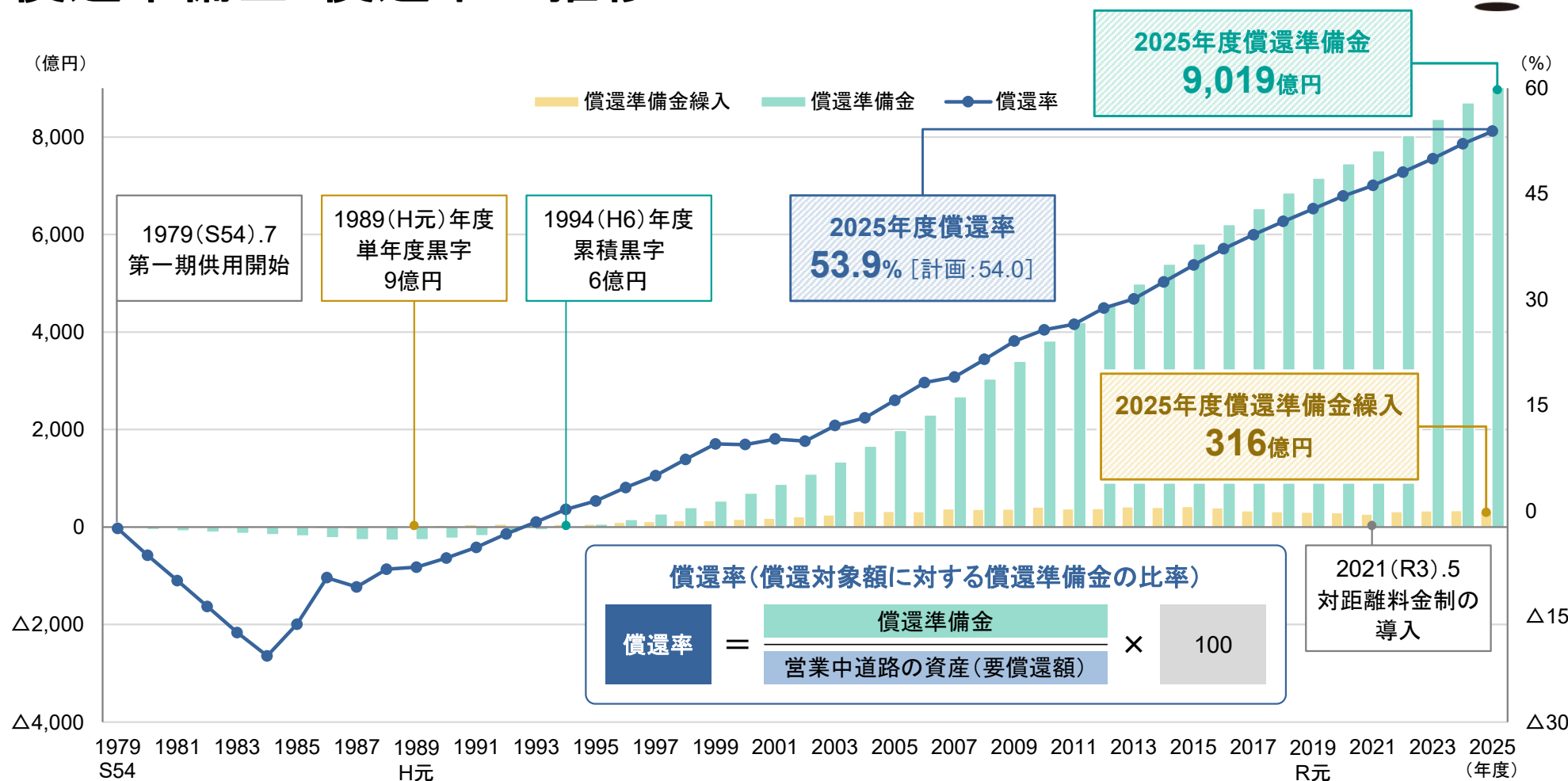
1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

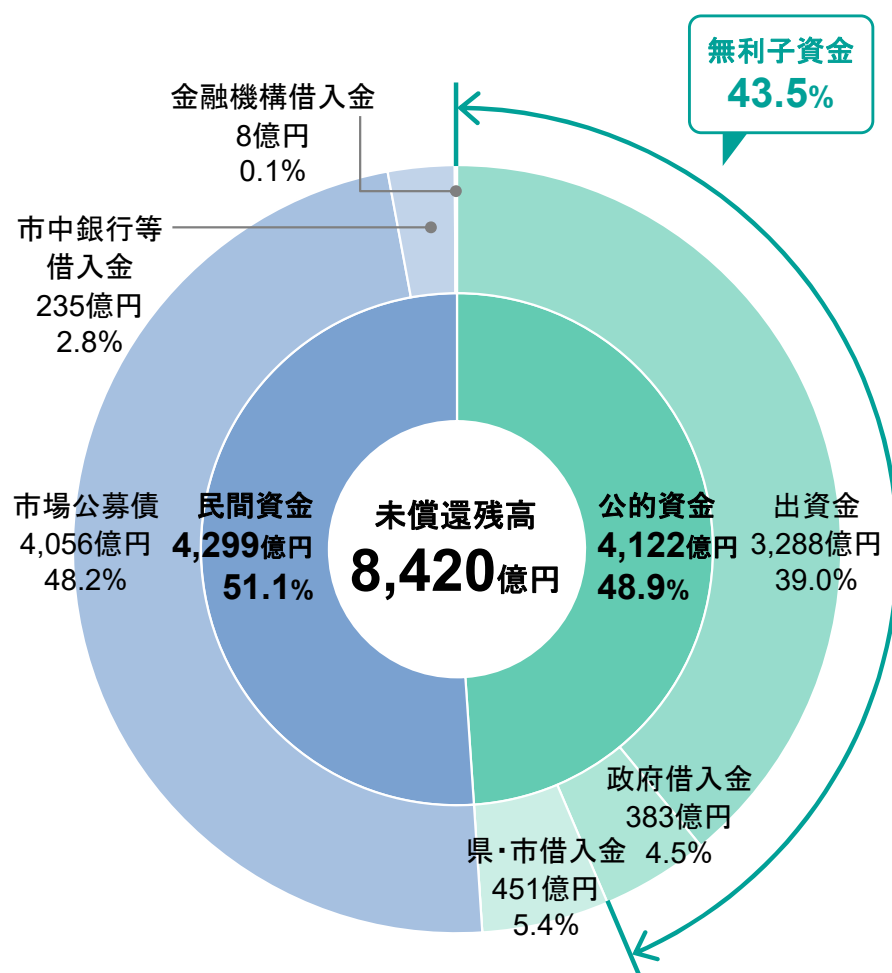
償還準備金・償還率の推移



- 償還準備金は、1979年度(昭和54年度)供用開始から1988年度(昭和63年度)まで費用が収益を上回るマイナス状態が続くも、供用区間の延長等に伴い料金収入が増加したことを受け、1989年度(平成元年度)から単年度黒字に転換、1994年度(平成6年度)には累積でも黒字に転換、以降、毎年償還準備金の繰入が続き、2025年度(令和7年度)は前年度から316億円増加、9,019億円となりました。
- 償還率は、供用開始から低下傾向が続くも、第二期供用(昭和60年度)以降好転し、1994年度(平成6年度)にプラスとなりました。以降、毎年償還を続け、2025年度(令和7年度)は前年度比1.8ポイント向上し、53.9%となり、計画※とほぼ同水準となっています。

※ [計画]: 2020年(令和2年)3月国土交通大臣料金認可に基づく

2025年度(令和7年度)末 未償還残高の状況



(億円)

調達先	2024年度末 未償還残高 A	2025年度 調達額 B	2025年度 償還額 C	2025年度末 未償還残高 D=A+B-C	期中増減 D-A
公的資金	県・市出資金	3,253	35	3,288	35
	政府借入金	399	59	383	△16
	県・市借入金	438	82	451	13
	計	4,089	176	4,122	33
民間資金	市場公募債	4,178	273	4,056	△122
	市中銀行等借入金	215	65	235	20
	金融機構借入金	12	0	8	△5
	計	4,405	338	4,299	△107
合計	8,494	514	588	8,420	△74

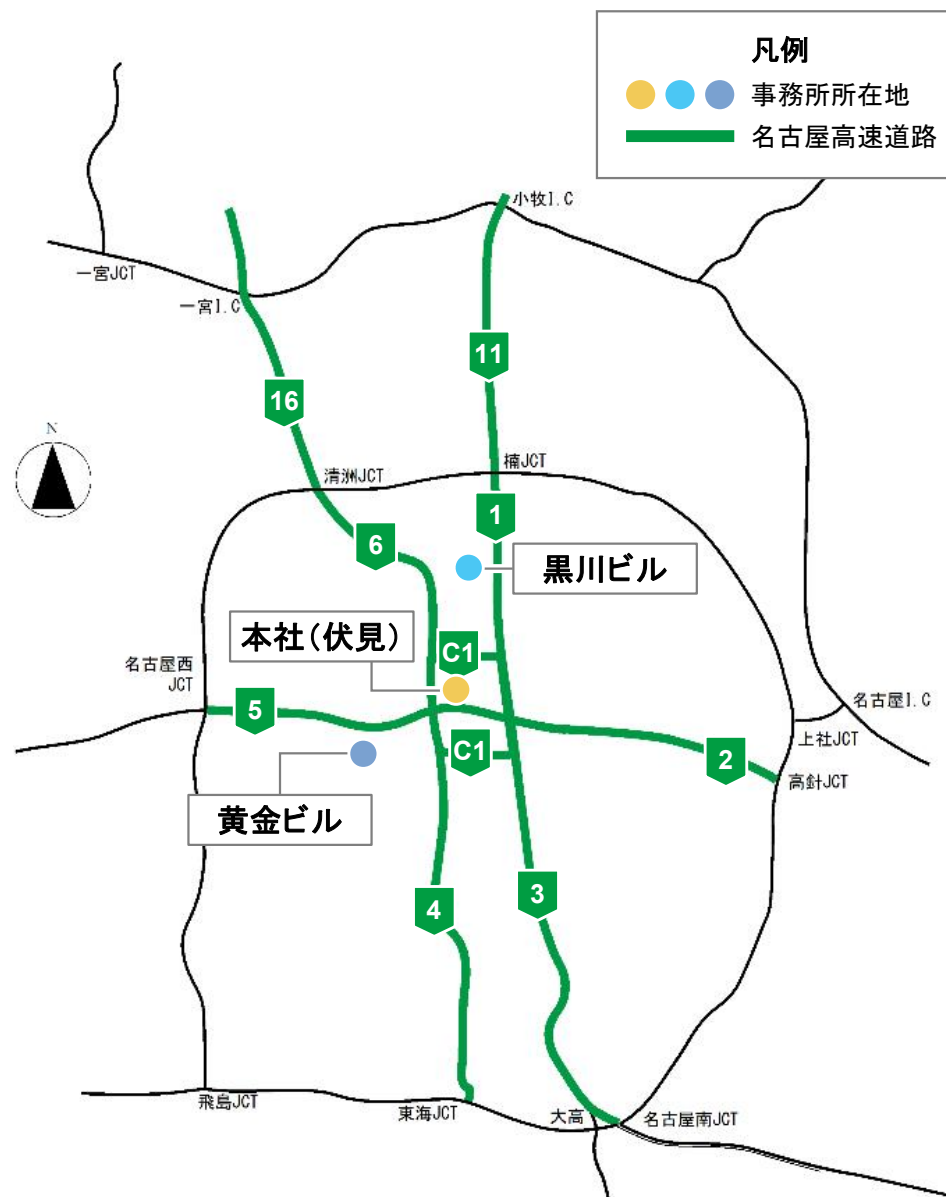
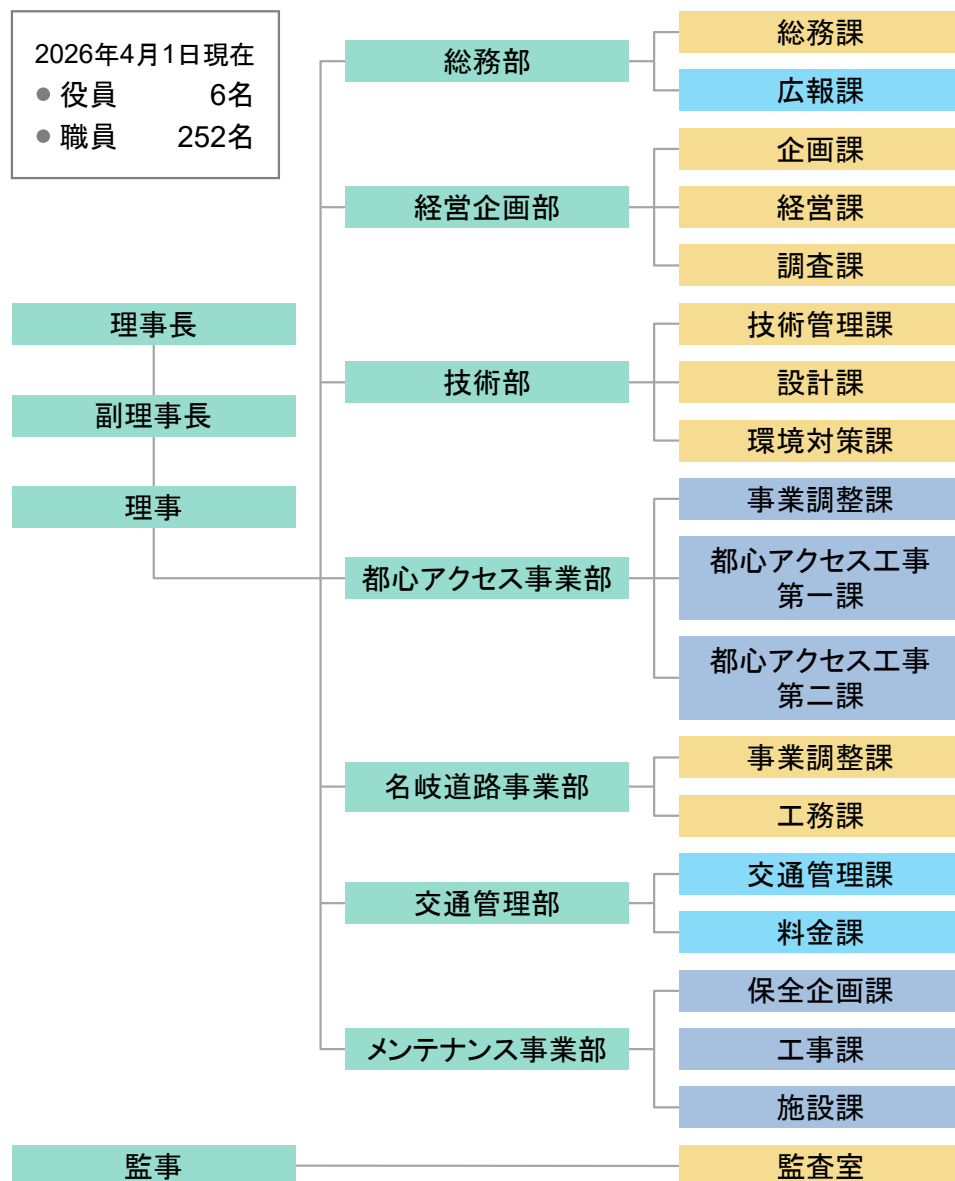
※ 端数処理の関係上、計において合わないことがあります

- 2025年度末未償還残高は、8,420億円となっています。
- 無利子資金の「県・市出資金」、「政府借入金」の計は、全体の43.5%を占めています。
- 未償還残高の構成は、公的資金48.9%、民間資金51.1%となっています。
- 調達した資金は、お客様からの料金収入で返済していくものです。

有利子資金の加重平均借入利率

2022年度末	2023年度末	2024年度末	2025年度末
0.90%	0.92%	1.01%	1.08%

公社組織図



1. 財務状況

2. 資金調達

3. 名古屋高速道路債券

参考資料

- 本資料は、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、債券の募集、売出し、売買などの勧誘を目的としたものではありません。
- 債券のご投資判断にあたりましては、当該債券の発行などにあたり作成された債券内容説明書などに記載された条件、内容や仕組み、その他入手可能な直近の情報などを必ずご確認くださいようお願い申し上げます。
- また、本資料でお示した将来の見通し又は予測は、当公社として現時点で妥当と考えられる範囲内にあるものの、確実な実現を約束するものではありません。



本件に関するお問い合わせ先

名古屋高速道路公社 経営企画部 経営課

TEL 052-222-8403(直通)

FAX 052-222-8418



[名古屋高速道路公社
ホームページ
企業情報サイト](#)



[名古屋高速道路公社
ホームページ
ドライバーズサイト](#)